



校報しののめ 2月号

令和8年2月6日 松山市立東雲小学校



最後のマラソン大会（6年男子）

七 転 八 起 !

校長 山内 望

将棋棋士の加藤一二三さんが、先月の22日に肺炎のためにお亡くなりになりました。人間味あふれる方で、晩年は、「ひふみん」の愛称で親しまれ、テレビなどのメディアに多数出演されていたのを覚えています。ニュースでは、「ひふみん」の御逝去をしのぶとともに、約63年間の現役生活で築き上げた記録も紹介されていました。

- ・ 当時の史上最年少棋士（14歳7か月）…62年間維持
- ・ 史上最速A級八段（18歳3か月）
- ・ 現役最年長記録（77歳5か月） など

なかでも私が一番驚いたことは、敗局数（負け数）が歴代1位（通算成績1,324勝1,180敗）ということです。「神武以来の天才」と呼ばれた「ひふみん」が負け数の歴代1位とは……。しかし、この事実は、挑戦した数が多いこと、そして負けた数だけ立ち上がってきた証であり、何事にも替え難い輝かしい記録だと痛感しました。

さて、本校では1月23日（金）、校内マラソン大会を開催しました。厳しい寒さを心配しましたが、予定どおり実施することができました。御家族の皆様には、温かい御声援をいただき、誠にありがとうございました。おかげで、多くの



最後のマラソン大会（6年女子）

の子どもが試走で見せた以上の頑張りを発揮することができました。最後まで足を止めずに精一杯ゴールを目指す姿から、東雲っ子のたくましさを感じました。

午後からは、教室前のワークスペースで、学年別表彰式を行いました。私はどの子ども達成感に満たされているだろうと思っ

ていたのですが、意外にも学年が上がるにしたがって、「悔しい…。」「もっと頑張りたいかった…」などの声が多く聞かれました。その姿は、「ひふみん」の負けた数だけ立ち上がってきた姿と重なり、子どもたちの心の奥にある「強さ」を感じずにはいられませんでした。私は、「全ての子どもに金メダルを！」という思いを持ちながら、精一杯の姿を見られてうれしかったこと、そして順位やタイムという結果以上に「自分の目標を持つこと」や「目標達成に向けて頑張りを続けること」の大切さについて伝えました。

「七転八起」子どもたちは、これから成長していく過程で、幾度となく壁にぶつかるでしょう。いつもうまくいくとは限りません。そのようなときに、「また前を向いて頑張ろう」と思える子どもを育てたいと考えます。そのためには、自身の経験の中で、「努力したら自分にとってよい結果が得られた!」という成功経験の蓄積が必要です。学習や運動、友人関係などにおいて、学校や家庭、地域社会が協力して子ども一人一人を見守り、支え、必要に応じて導きながら、成功経験を生み出していきたいと考えます。今後とも御支援・御協力をお願い申し上げます。



校内マラソン大会



きょうは、マラソン大かいがありました。スタートのまえは、きんちょうしました。はしっているときは、まわりにおいぬかされないか、ドキドキしていました。ゴールしたあと、おかあさんにほめられてうれしかったです。らい年の目ひょうは、ことしのきろくより、みじかいじかんではしることです。また、らい年がんばります。

1年

きょねんのマラソン大会がおわってから、毎日家に帰ると走っていました。練習しながら10位をとりたいて思っていました。本番前はきんちょうしていたけれど、いざ走りはじめるときんちょうしていたのがなくなりました。もくひょうのじゅんいになれなくてくやしかったけれど、さいごまで走り切りました。

2年

今年のマラソンは、じゅんいが上がったたり下がったりして、私の気持ちもうれしかったりくやしかったりしました。本番では、タイムやじゅんいが2回目の試走よりよくなっていたのでうれしかったです。今回の記録を目標にして、来年の校内マラソン大会でもがんばりたいです。また、がんばっている人への応援もレベルアップして4年生になりたいです。

3年

試走のときとくらべて、保護者の方もたくさん見に来ていたからきんちょうしました。本番、最初はとてもいいペースで走れました。最初にちょっと速く走りすぎてしまったかなと思ったけれど、自分のペースをくずさずに最後まで走りきることができたので、自分のめあてが達成できたなと思いました。お父さんとトレーニングした成果を出せてよかったです。

4年

ぼくは、マラソン大かいの本ばんをがんばりました。たくさんうちの人がきていて、とってもドキドキしました。はしっているときにお父さんが見えてうれしかったです。一生けんめいはしったので、足がとてもつかれたけれど、さいごまでがんばりました。らい年も、タイムが早くなるようにがんばりたいです。くすのき

僕は試走の時より、本番の方が順位がよかったのでごくうれしかったです。自分の全力を出し切って走ることができました。でも、最後にこけてしまったので、そこは悔しかったです。今までのマラソン大会では悔しくて泣いたことはなかったけど、今回は悔しくて泣いてしまいました。でもこの悔しさをバネに、これからもっと練習をして、6年生では今までで一番の最高の走りをしたいです。必ず1位を取りたいです。

5年

私は、5年生のときよりも、順位を上げることができました。タイムは試走よりも20秒も自己ベストを更新することができました。ペースを維持することや呼吸、前の人にしっかりついていくことを意識できたからだと思います。大きな声で、みんなのことも応援できました。今まで、けがもあって大会に参加することができなかったこともあったけれど、どのときも全力で走ることができたので、よかったです。今回が、6年間の中で一番楽しかったです。中学校にいても、マラソンがあるので全力で走りたいです。

6年

